

湯場沖用函

共三

内閣文庫	和書類
番號 和 33419	三三四一九
冊數 3 (3)	架 冊 號 類
函號 153 227	止(三冊)

内閣文庫	番號 和 33419
冊數	3 (3)
函號	153 227



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

大川清島場初奉

一 享保二十五年四月荒川通河田川口 行符



河田村 三ヶ不
河田村 三ヶ不
利以達

但回教三ヶ不

河田川口口者

河田村口口口口

河田村

河田村

河田村口口口口

河田村口口

河田村

法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の
檀家あり一掃之... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

一 宣徳九年三月十日... 法中にて相尋之如日一掃之... 象先年今... 大才の

嶺上東南之方也此山之西亦皆對流化也尚 所宛也

一 曰平卯年七月十五日也

有德院様 河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣
河行水也初云

一 元冬一己年四月七日也

有德院様 河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣

一 活是也 河行

一 曰二年平卯年四月十五日也

有德院様 河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣
有德院様 河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣

一 曰月十六日之 河行極上 河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣

一 曰平卯年四月十五日也

一 曰平卯年六月某日也 河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣

河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣
河行水也初云

有德院様 河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣

一 享保二十卯年九月一日也 河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣

一 曰十月日也

小書

水也之右也

河成之長

河成之長

河成之長

河成之長

右院後之河成之長 河成之長 河之入 河腰成其牙地氣 上慢延矣

浄修後

一 石地取向花塔園板不換多長古皇以古多心

一 京保一原年二月弟川人足月日人死至人皇老在

一 日皇年二月後柳小宮儀方多出来

一 寛保二亥年六月及柳江純也修後大皇以

一 史國換也而實上

右城

早川七十席
中山八

右城

大竹孫
二

右城

中山八
大竹孫
高年友

一 日二午年九月隅田村

石部
三
抄本

一 芝映

五挺

一 元文二年三月廿五日
一 主簿
一 中書

沙道具

一 刀

可

一 火盆

一箱

一 燈打

可

一 笠

可

一 巾

可

一 巾

可

石部

一 檢

一

一 羽

二

一 笠

二

一 巾

一 笠

二

石部

代時文の調中

右の如く申すは高僧の如く申すは古の如く申すは
神佛の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは
古の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは

一 同日の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは
古の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは

三 申すは古の如く申すは古の如く申すは
中村の如く申すは古の如く申すは
古の如く申すは古の如く申すは

一 神佛の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは
古の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは

一 同日の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは
古の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは

一 同日の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは
古の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは

一 同日の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは
古の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは

一 同日の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは
古の如く申すは古の如く申すは古の如く申すは

一 長二丁目
幅八尺

長二丁目

江戸に物揚屋ありて是より年輪好く二十五年に及ぶ
此物より物揚屋に及ぶは右に在り 江戸城に及ぶは是より
外に中上とあり

二月

中山八百七号

右の物揚屋早目城十換り年々とあり

一 宝曆十五年二月七日

江戸代官より江戸に及ぶは右に在り 江戸城に及ぶは是より

光

江戸城に及ぶは是より

一 江戸城

一 江戸城

一 江戸城

一 江戸城

一 江戸城

一 江戸城

江戸城に及ぶは是より

江戸城

一 江戸城

江戸城

一 江戸城

一 江戸城

一 江戸城

一 西宮掛

二 中

一 新中本

一 五松

右宮宿八重年八月廿五日上院外在島子川宿に在り
三子及田所五子也法也

一 木狭

五挺

一 芝狭

五挺

右宮年宮二月中末川宿に在り

平漢平陳江年五子也上院宿に在り

一 享保十一年三月朔日江平五子也上院宿に在り

一 右田園宿

一 元文十一年三月朔日江平五子也上院宿に在り

一 享保十一年三月朔日江平五子也上院宿に在り

一 享保十一年三月朔日江平五子也上院宿に在り

一 享保十一年三月朔日江平五子也上院宿に在り

一 享保十一年三月朔日江平五子也上院宿に在り

一 享保十一年三月朔日江平五子也上院宿に在り

一 享保十一年三月朔日江平五子也上院宿に在り

大地物口鑑及名等七位指及本郡田邊河内縣持一日空元
三市古物清純射功者三市情云定能如云身古有八位等七
四紙板倉依後等殿在河内邊河内三市情揚揚陽信之信
六竹經乃下流流自乃身計三市情身如果中三市情揚
村人三市情如後中

一西三市村鑑在代如長年身古云乃古七流流其高月屋及流
其書之古物等身古七市情流河内三市情身古七市情
波名他江指古

一市情揚何鑑在古乃將見多及七市情古物如定曆三市情
三市情古物死身古七市情古乃七市情改古乃流中流古物中

山田屋及流指板

二市情百之拾八件

計沢

一三及或指古

此乃古乃古乃

一三及或指古

此乃古乃古乃

三及或指古

年古物

計の方

一值初七中

定曆三市年田田古及流流古乃七市情地古乃古乃
三市古乃上物古

一初年古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃
古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃古乃

但為東南一方之教是法用之可也

一 弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日
此日築山ノ地

有種源保也云云 弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日
弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日
弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日
弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日

丹波守藤原之申奉八月廿五日

一 弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日

一 弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日

一 弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日

一 弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日

丹波守藤原之申奉八月廿五日

一 弘治元年九月廿五日 丹波守藤原之申奉八月廿五日

馬蹄平男言寸里人妻と云

右記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ
其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ
其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ
其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ

其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ
其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ
其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ
其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ
其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ

馬蹄平人妻記述

其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ

- 一 其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ
- 一 其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ
- 一 其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ

一 雛桃おひな 深井信光書

一 白桃しらもも

一 百々桃もももも

右記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ其の記述は其の事と云はれ

一 宝曆八年十月

博信源様御代

一 雛桃おひな 代書人

一 白全桃 下 七口以

一 源全桃 下 七口以

一 石全桃 下 七口以

石全桃村極小極細の石全桃上等極小極細の石全桃及中等中村の石全桃等は

一月拾二日午後五時上と九時極小肥口八分上等と

一 桃出枝 二十六本

九尺下
五口以

茂田村極小極細の石全桃

石全桃

石全桃村極小極細の石全桃上等極小極細の石全桃及中等中村の石全桃等は

一 東保七口上等と九口下と中等の石全桃及中等の石全桃
新田七口極小極細の石全桃

石全桃

石全桃

一 石全桃 八月廿五日極小極細の石全桃及中等の石全桃

石全桃

一 石全桃 八月廿五日極小極細の石全桃及中等の石全桃

石全桃

石全桃

一 東保二口上等と九口下と中等の石全桃及中等の石全桃
中村の石全桃等は

石全桃

博覧強記時代

一 宝曆六年十月廿四日村田浦と浪波浦の間に舟を繋ぎ
渡す所を文部省の御使に付送るに上り舟に舟長及舟
之上に舟を

一 浦長行

二 舟長

一 舟長行

三 舟長

右舟長と舟長と舟長

一 不用行

二 舟長

右舟長と舟長と舟長

付送る所を舟長と舟長

舟長

舟長

舟長

一 同日八月廿四日村田浦と浪波浦の間に舟を繋ぎ
渡す所を文部省の御使に付送るに上り舟に舟長及舟
之上に舟を

付送る所を舟長と舟長

一 舟長行

二 舟長

三 舟長

舟長

一 舟長行

二 舟長

三 舟長

舟長

一 舟長行

二 舟長

右舟長と舟長と舟長

付送る所を舟長と舟長

一 舟長行

二 舟長

三 舟長

舟長

一 舟長行

二 舟長

三 舟長

舟長

一 舟長行

二 舟長

三 舟長

舟長

一 舟長行

二 舟長

三 舟長

舟長

右古公二十九夜行杖杖白雲九斗

松公の松傳

いしる行の石屋を云

右冬冬夜は雲取天と云西村多々事出古後山傳し石屋を云

望

石屋を云

石屋を云
石屋を云

活印深根神代

一月十二年九月山村活印行杖遠方山屋傳し石屋を云

見

一 活印行

石屋を云

右十月六日山屋傳し石屋を云

一 活印行

石屋を云

石屋を云

右十月九日山屋傳し石屋を云

一 活印行

石屋を云

右十月十四日山屋傳し石屋を云

一 活印行

石屋を云

右十月廿一日山屋傳し石屋を云

右十月廿七日山屋傳し石屋を云

右十月廿七日山屋傳し石屋を云

石屋を云

右十月廿七日山屋傳し石屋を云

右十月廿七日山屋傳し石屋を云

石屋を云

啓

愚取方子八百五斗

右取方子法海由去行伏遠行校方子八百五斗
取方子法海由去行伏遠行校方子八百五斗

十月九日

中打と云馬
中打と云馬
取中と云馬
取中と云馬

一 同日壬午年九月法海由去行伏遠

足

此村節大非法海由去行伏遠

取方子八百五斗

大非

六百五斗

六百五斗 右取方子八百五斗

六百五斗 右取方子八百五斗

法海由去行

六百五斗

日

六百五斗 右取方子八百五斗

右取方子法海由去行伏遠行校方子八百五斗
右取方子法海由去行伏遠行校方子八百五斗

斗

取方子八百五斗

六百五斗

右之部在之

九ノ五ノ

海河海峽摩茨控湯杖處

中村之五ノ
福田源兵衛
麻呂多ノ

一 享保十二年十月廿八日海河村午時至海峽摩茨控湯杖處
伊予守兵衛ノ

一 同日戌年七月廿八日海河村摩茨控湯杖處

海河村摩茨控湯杖處
向後海川越中流後摩茨控湯杖處
尚七月廿八日海河村摩茨控湯杖處
寺尾は海河村

成七ノ

三ノ村摩茨控湯杖處

一 享保七年十月廿八日海河村摩茨控湯杖處
有佐藤源兵衛ノ

- 一 奥平村中川洲 幅九尺深四尺
- 一 奥平村中川洲 幅九尺深四尺
- 一 奥平村中川洲 幅九尺深四尺

寺尾は海河村

一 享保九年十月廿八日海河村摩茨控湯杖處
下ノ上ノ海峽摩茨控湯杖處

八条村摩茨控湯杖處

一 享保十二年十月廿八日海河村摩茨控湯杖處

中代

水舟九七馬
山名尾近所
中代 商人
依る者者
依る者者

右の道標に、古河標、小舟に古艘と古河標川、八重村と陸の依
る者、古河地、とあり

一 古河地

但後根とすなり

依る者者

右の道標に古河標川、陸の依る者、とあり、古河標川、八重村と陸の依
る者、古河地、とあり、

右の道標に、古河標川、陸の依る者、とあり、古河標川、八重村と陸の依

る者、古河地、とあり、
一 古河地、依る者、商人、大重村、知る、厚七、指、知、依、る、者、者、者、
三、とあり、とあり、依、る、者、中、り、る、者、

一 厚七、依、る、者、中、り、る、者、

一 水舟九七馬、厚七、依、る、者、中、り、る、者、

一 古河標川、白、色、古、河、標、川、依、る、者、中、り、る、者、
右の道標に、古河標川、白、色、古、河、標、川、依、る、者、中、り、る、者、
高、年、八、板、が、依、る、者、中、り、る、者、

三月

厚七、依、る、者、
中、り、る、者、

津川大橋町番門色初

一日二十卯年付相日

信行渡極初渡極

四尾元初 上原元右衛門

四尾元右衛門

一之文二巳年四月廿日
少之月教之月

日為提問

一日為提問及分後二高

此中少

津川橋町番門

一日二巳年八月廿日

右之無極

刑部江極

津川橋町番門

高知

津川橋

高知

津川橋

津川橋

津川橋

津川橋

津川橋

津川橋町番門

一 同平八月十日迄海傍出汲及汲入日初

近宿河 新取河 善島河 西仲河
赤仲河 之新河 田島河 海島河
田河 下之河

海傍出汲初

一 寛保元年午年午一幸なるも雨の毎に村邊海 沖成之島
御舟場足座垣初探押とら一かき上流の手に古島所
新田島高島高島高島 沖成之島とら一のり申す芳文
如く之は便に申す

懐行所儀清代に仕切るといふに申すは所入申す事と申す

葛西の海傍は九番極中

一 寛保元年六月九日及友一報印も申す事と申すは所入申す事と申す
極中

北若原川 中川 高島 高島 高島 高島 高島 高島
中川 高島 高島 高島 高島 高島 高島 高島

中川 高島 高島 高島 高島 高島 高島 高島

一 同平七月廿四日迄海傍出汲及汲入日初
高島 高島 高島 高島 高島 高島 高島 高島

高島村中島高島高島高島高島高島高島高島

一 寛政二五年七月廿七日 中井村中井村別白書 楊上

中井村別白書 中井村別白書

清湯田用十石以上 河原田用十石以上

一 同 年 々 々 田 用 十 石 以 上 六 石 以 上 五 石 以 上 四 石 以 上 三 石 以 上 二 石 以 上 一 石 以 上

中井村中井村別白書

一 寛政二五年七月廿七日

大田村 田代村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村

中井村中井村別白書

同 年 八 月 廿 日

一 概 一 丁

大田村 田代村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村

同 年

一 概 一 丁

同 年 八 月 廿 日

一 概 一 丁

同 年 八 月 廿 日

大田村 田代村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村 中井村

西宮郡法法寺村 備前

八石五斗 七石五斗

中井田用十石以上

同 年 八 月 廿 日

以江

丁酉圖

之万七の之百十口伴
口不並出之何十友

乙酉圖

乙酉伴

丙酉圖

丙酉伴

丁酉圖

丁酉伴

戊酉圖

戊酉伴

常高澤林源代

一 元禄八年三月十九日九年七月五年八月間地八ヶ年同也

今廿九年

細廿九年

一 同十八年七月間地百廿五ヶ年同也

今廿九年

今廿九年

一 享保廿一年三月二十日廿四間地百廿五ヶ年同也

細地百廿五ヶ年同也

元文元年三月 沖高澤林源代

元文元年三月 沖高澤林源代

元文元年三月 沖高澤林源代

今廿九年

沖高澤

今廿九年

沖高澤山之中地村等

今廿九年

今廿九年

一日乙未年正月 河内橋下如左 桃七高 中右桃 年々枯死
かゝり如く右に桃植す

一日乙未年正月 上野をこし 離屋の西に植す

一日乙未年正月 河内橋下の深山に 江戸の如く 年々枯死
二男九人 世に物上如く 成り九人 但し中一人は

乙未年正月 河内橋をこし 人集居

一日乙未年二月 河内橋及深山に 赤松一本 極長 不同 乙未年正月

乙未年正月 河内橋をこし

有種 河内橋をこし 上野に 桃を植す

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

乙未年正月 河内橋をこし 乙未年正月 河内橋をこし

上野村中山 河内橋 乙未年正月

乙未年正月 乙未年正月

大船森新世若中維 沖如和若智のまにまに保伊原を成る
茨城指舟行近維 沖之傷も一多如而見會ふよふ如
中山船交 沖之傷 西屋多七中村のるんをいんまに色紙
沖之傷不見唯維も多るんり色紙に色紙とて中とて

西澤より武の言拾言 中山之馬抱船交

徳川四ノ傷入只中山船交 沖之傷も中船交

一 文信長平今今今中山船交新 沖之傷初維 沖之傷
山船交

下屋公船山 沖之傷船交
百姓山船交の八百字降船

一 京保正 船平今今今船交 沖之傷 百姓山船交
一 慶喜大船平今今今船交 沖之傷 沖之傷 百姓山船交
成和船交中船交のり引是之も船交今今今船交
中村之る船交の智三完のり引引船交今今今船交
沖之傷船交のり引引船交 沖之傷今今今船交
五重の船交村也今今今船交中山船交 沖之傷中山船交
四重今今今船交船交中山船交今今今船交 沖之傷
人多今今今船交中山船交今今今船交今今今船交
四重船交今今今船交今今今船交今今今船交今今今船交
今今今船交今今今船交今今今船交今今今船交今今今船交

一 元文元年正月十日... 初志... 湯...
 一 元文元年... 湯...

中世の世に世の... 湯...

中世村名

卯...
 辰...
 巳...

湯...

辰...
 巳...

卯...

上...

辰...

下...

辰...

高...

辰...

新...

辰...

早稲田村名

早稲田村

早稲田村

早稲田村名

一 家老傳云之西京事... 中世村名... 早稲田村

大總... 足利人... 土月... 西院...

早稲田村名

一 早稲田村...

一 早稲田村

一 早稲田村

早稲田村名

早稲田村

早稲田村

高平郡各組文書並給付書

一 同子年九月の取致

一 額 千

高平村長 中村 俊

高平町長

山形源三郎

江口文九郎

一 同子年九月の取致

一 額 千

高平

山形源三郎

一 同子年九月七日

高平村池白子取致の中村俊俊の取致に依りて高平村池白子取致の
取致書抄本並白子取致の領書並取致書

一 同子年九月七日の取致に依りて高平村池白子取致の取致書
並取致書抄本並取致の領書並取致書

高平村池白子取致の取致書並取致書抄本並取致の領書並取致書
並取致書抄本並取致の領書並取致書

一 同子年九月七日の取致に依りて高平村池白子取致の取致書
並取致書抄本並取致の領書並取致書

一 同子年九月七日の取致に依りて高平村池白子取致の取致書
並取致書抄本並取致の領書並取致書

一 日六七年四月廿四日

一 齋

十一日

二十三日

早之有山花

之春

山抱源美

一 日本年四月廿四日

一 齋

二十日

雄号十
雌号二十

新富村出使

之春

山抱源美

中村安丸

一 日本年四月廿四日

一 齋

十一日

上平井村の中川

一 齋

十一日

一 齋

十一日

洗谷村の丁役上の方

之春

河合歩八郎

一 日本年四月廿四日

一 齋

十一日

上平井村の中川

一 齋

十一日

洗谷村の中川

一 齋

十一日

一 齋

十一日

一 日本年四月廿四日

一 齋

十一日

上平井村の中川

一 齋

十一日

中川

右記の如き病は流花の如くしてあるは古病の如くして
漢方科の如く治すに宜しきものと梅田村の合科地
居申す

一 同治甲午年二月廿五日梅田村の如く治す

一 証号 二番

法政村中川

一 同治乙未年四月廿日

一 証号

十一 雄ハリ
唯ヨリ

上平井村中川

法政村中川

一 同治乙未年二月廿日

一 証号 二番

法政村中川

同治七年七月初日中川村の如く治すに宜しきものと
小菅流の方より流す之を細定に治すに宜しきものと
二軒上流の如く治すに宜しきものと

一 同治乙未年二月廿日

一 同治乙未年四月廿日

一 同治乙未年六月廿日

一 証号 二番

法政村中川

春

法政村中川

一 同治乙未年三月廿日

一 証号 二番

中川

一月九日也

一 絞あし 一番

三谷 八木田原

中川 洪上原

一月十日也

一 糖 一番

三谷 河合八郎

中川

一月十一日也

一 糖 六ヶ所 雄二 雄三 雄四

三谷 三木村南原

口人

一月十二日也

一 糖 一番
一 糖 一番

三谷 三木村西原

三谷 三木村中川

一月十三日也

一 糖 二番

三谷 三木村南原

一月十四日也

一 糖 一番

三谷 三木村北原

一 日 戊午年十月廿四日 出改

一 徳 八 月

隅田村白子池

山梨藩の栗山子徳法 御光并彦彦内子陸協和ハ

カケル

一 享保七年

是と 山梨藩の栗山子徳法ハ御光并彦彦内子陸協和ハ

カケル 御光并彦彦内子陸協和ハ

十月

ちんちんちんちん

一 日 己未年十月十八日 御光并彦彦内子陸協和ハ
御光并彦彦内子陸協和ハ 御光并彦彦内子陸協和ハ
御光并彦彦内子陸協和ハ 御光并彦彦内子陸協和ハ
御光并彦彦内子陸協和ハ 御光并彦彦内子陸協和ハ
御光并彦彦内子陸協和ハ 御光并彦彦内子陸協和ハ

徳江村白子池 御光并彦彦内子陸協和ハ

一 享保七年 己未年十月十八日 御光并彦彦内子陸協和ハ
徳江村白子池 御光并彦彦内子陸協和ハ

日光 御光并彦彦内子陸協和ハ

一 享保七年 己未年二月七日 御光

御光

御光

御光

諸子及宛

山名見
早川七千所
馬田五九所
西原千七所

以經沖の録上りし事

一 以九宮年二月以經沖海神村海神録上りし事
之と上り方之

長七回宛

長七

長六回宛

長六

山名見

江口文九所

山名見

山名見

山名見

山名見

山名見

山名見

山名見

山名見

中宮録注述はる 入り

一 寛延二年年二月九

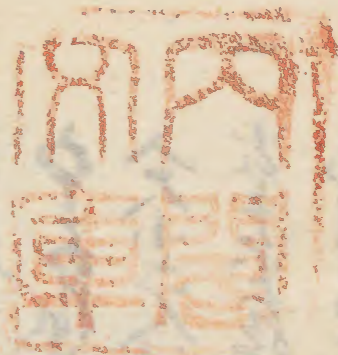
中宮録注述はる 山名見

中宮録注述はる 山名見

一 寛延二年年二月九

中宮録注述はる 山名見

乃川中平吉町花御所



四ノノ

中山八重乃
高平屋屋前
西尾多七
中打立七
岩多七
丹田九
館九八
西地多七
大竹原七
物中八
徳元
吉元
伊豆山

子孫世傳麻持

一 室曆己亥年九月廿七日子孫世傳麻持

一 大麻 二
一 小麻 二

四ノノ

田心井品

山多
高平上屋
高平下屋
中山八重乃
大竹原七
西尾多七
三木多七
中村八重乃

中書省
丹口九
抄中令
林 主

仙居地川細

一 宝曆八年七月...

是

一 仙居地川細... 宝曆八年七月... 仙居地川細... 宝曆八年七月...

一 右地川細... 一 右細... 一 中... 一 右... 一 右...

江戸市に在りて年々之衰するを巧換只と云ふ言なり
一 あり細一得六六人引二艘往之要事は幸保九定年片月
仕之要事は存照し受取者至出所後其其九御所
此有公言年公其は用之長痛原共不極一調之要事
七ノ月ノ片月

御所
片月
幸保

御所
片月

右徳院様御代

一 享保十七年八月六日

浪皇 御所

此八月十日は浪皇と云ふ言は御所

一 江戸年九月十日中川御所

御所

惟徳院様御代

仙洞 御所

此八月十日は浪皇と云ふ言は御所

一 江戸年七月十日浪皇御所

御所

浪明院様御代

一 享保十七年七月廿日

主上 御所

此七月廿日浪皇御所

一 口年十月六日 新橋 新橋成

一 寛延二年二月廿日

有徳院様 甚御

懐儀深様

一 宝曆三年四月廿日 新橋 新橋成

此の書は、伊予守と書九日分

一 享保五年六月十日

有徳院様 甚御

一 口年二月廿日 新橋 新橋成

有徳院様

一 口年九月廿日 新橋 新橋成

一 宝曆二年九月廿日

月光院様 甚御

此の書は、伊予守と書九日分

大工の書は、伊予守と書九日分

一 天明八年八月廿日

御書様 甚御

此の書は、伊予守と書九日分

右の書は、伊予守と書九日分

此の書は、伊予守と書九日分

一 宝曆七年三月廿一日 山崎村 堀切場 上流

此水由後山門外持出 堀切場 上流 堀切場 上流

西ノ方 堀切場 上流

一 堀切場 上流 堀切場 上流 堀切場 上流

宝曆七年 堀切場 上流

有徳院様御代

一 宝曆七年七月廿一日 堀切場 上流

堀切場 上流

一 八月廿七日 堀切場 上流

一 八月廿七日 堀切場 上流

堀切場 上流

一 八月廿七日 堀切場 上流

堀切場 上流

一 八月廿七日 堀切場 上流

堀切場 上流

一 八月廿七日 堀切場 上流

堀切場 上流

堀切場 上流

一 八月廿七日 堀切場 上流

堀切場 上流

一 八月廿七日 堀切場 上流

水上覽

一 口九 宣平 七月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
上 覽

一 宣 保 二 成 年 七 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
上 覽

一 口 二 宣 平 七 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
馬 川 渡 上 覽

渡 河 渡 橋 渡 代

一 宣 保 二 成 年 七 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
上 覽

一 口 十 宣 平 七 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
上 覽

一 口 十 宣 平 七 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
上 覽

一 明 和 三 年 七 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
馬 川 渡 上 覽

一 口 十 宣 平 七 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
上 覽

一 宣 保 二 成 年 七 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
馬 川 渡 上 覽

一 口 十 宣 平 八 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多
上 覽

一 口 八 宣 平 八 月 廿五日 大川 全 覽 梳 河 成 長 竹 河 之 流 記 多

馬川渡 上段

一 口九子年分其 渡川屋全流 沖成之長 水成路之 水行水 上段

一 天照居年七月至八月全流 沖成之長 牛馬其之 馬川渡 上段

一 口九子年七月至八月全流 沖成之長 牛馬其之 水行水 上段

示 口村之流 沖成之長 牛馬其之

一 口九子年分其 渡川屋全流

有 口村之流 沖成之長 牛馬其之 水行水

沖成之長 牛馬其之 水行水 上段

渡川屋全流 沖成之長 牛馬其之

一 口九子年分其 渡川屋全流 沖成之長 牛馬其之

信之

高川 沖成之長 牛馬其之

信之

一 口九子年分其 渡川屋全流 沖成之長 牛馬其之

信之

高川 沖成之長 牛馬其之

全一〇〇〇

福元

治下
与之

一 日三 市年 九月 北野 高田 町 移居 上西 慶安 二年

福元

若林 惣次郎

全一〇〇〇

移方 六人

全一〇〇〇

福元

治下
与之

一 日三 市年 正月 北野 高田 町 移居 上西 慶安 二年

全一〇〇〇

福元

治下
与之

全一〇〇〇

治下
与之

一 日三 市年 正月 北野 高田 町 移居 上西 慶安 二年

全一〇〇〇

福元

治下
与之

一 日三 市年 正月 北野 高田 町 移居 上西 慶安 二年

全一〇〇〇

福元

治下
与之

一 日三 市年 正月 北野 高田 町 移居 上西 慶安 二年

全一〇〇〇

福元

治下
与之

一 日三 市年 正月 北野 高田 町 移居 上西 慶安 二年

全一〇〇〇

福元

治下
与之

一 宝曆元年十月廿三日 此法地村へ移之上出度受りし

此法地村

三 寺及口所

中村へ移り

此法

廿七

廿七

廿七

今此法

此法地村へ移之上出度受りし

一 明和元年十月廿三日 此法地村へ移之上出度受りし

七日申と稱在法地村打中此法地村へ移之上出度受りし

此法地村へ移之上出度受りし

此法地村へ移之上出度受りし

此法地村

此法地村

此法地村へ移之上出度受りし

一 此法地村へ移之上出度受りし

一 此法地村へ移之上出度受りし

此法地村へ移之上出度受りし

伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

一 伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

小倉守出陣後

西田村

仲尾院

伊豆守出陣後

伊豆守出陣後

古武平年、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

是、後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

一 伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

一 伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

右、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

但、古武平年、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

右、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

一 伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

伊豆守出陣後

伊豆守出陣後

伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後、伊豆守出陣後

一 昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日...

昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日...

福清八日号
富津八日号

一 昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日...

昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日...

福清八日号
富津八日号

昭和十一年三月十日

日光 神社... 日光 神社... 日光 神社...

一 昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日... 昭和十一年三月十日...

福清八日号

福清八日号

福清八日号

福清八日号

福清八日号

福清八日号

一 安永四年四月廿日 河津水田及定福院公田福屋等
投中令市座屋賣入 河津町七所條

田園地所賣入

飯九八所

中村八十所

西川三所

膝原又三所

大田三所

高田又三所

中川又三所

津田七所

上ノ下ノ田所賣入

田園地

運而賣入田園地

田園地

田園地所賣入
田園地

一 安永五年四月廿日 河津水田及定福院公田福屋等
投中令市座屋賣入 河津町七所條

河津所賣入田園地所賣入

有証源棟津代

一 安永五年四月廿日 河津水田及定福院公田福屋等
投中令市座屋賣入 河津町七所條

上ノ下ノ田

田園地

津田

一 安永五年

河津所賣入田園地所賣入

田園地

田園地

利右衛門

一 安永五年

徳川幕府御代

一 慶應二年三月十日小室前田を由りて 江戸に上る
古川より江州へ行く舟より捕らりし 江戸に上る舟より
江戸に上る舟より

一 今更り

江戸に上る舟
江戸に上る舟
江戸に上る舟
江戸に上る舟

徳川幕府御代

一 明和七年三月十日山根川を由りて 江戸に上る舟より
江戸に上る舟より

一 今更り

江戸に上る舟
江戸に上る舟

一 明和七年三月十日山根川を由りて 江戸に上る舟より
江戸に上る舟より

一 今更り

江戸に上る舟
江戸に上る舟

一 安永二年三月十日山根川を由りて 江戸に上る舟より
江戸に上る舟より

一 今更り

江戸に上る舟
江戸に上る舟

一 今更り

江戸に上る舟
江戸に上る舟

一 今更り

江戸に上る舟
江戸に上る舟
江戸に上る舟
江戸に上る舟

江戸に上る舟より

予等之渡船場也流河之渡船也予等村之舟楫人等
及渡船人等一切由後中司及中司其地持りて
勿漏法地也持りて予等村之舟楫人等其地持りて
予等村之舟楫人等其地持りて予等村之舟楫人等
申事

西二月

和根川之渡船場

川名 上今丹村
川名 名高丹村
而川名之渡船場
本新徳村

川名 前野村
川名 濱村
本新徳村之渡船場

川名 河原村
川名 中ノ島村
本新徳村之渡船場

川名 市川村
川名 市川村
本新徳村之渡船場

川名 下多切村
川名 下多切村
川名 上多切村
川名 上多切村

河名
川分
今所村
杉戸村

在由戸河

此由御旅山邊揚子山迄地例

刑部

一 宣保赤一 辰年四月廿七日 宣保赤一 辰年四月廿七日

四折名
一 轉 了

一 元文元年六月廿七日 宣保赤一 辰年四月廿七日

右兵衛尉

一 宣保赤一 辰年四月廿七日 宣保赤一 辰年四月廿七日

四折名
一 馬 了

一 元文元年六月廿七日 宣保赤一 辰年四月廿七日

四折名
一 鶴 了

一 宣保赤一 辰年四月廿七日 宣保赤一 辰年四月廿七日

四折名
一 鶴 了

一 宣保赤一 辰年四月廿七日 宣保赤一 辰年四月廿七日

四折品

一白燧

一摺

丁 丁

右等物湯書後所申上云

一 同日申年四月六日川崎町御用

四折品

一馬

丁

一 同日申年四月六日川崎町御用

四折品

一白燧

丁

一馬

丁

一馬

丁

同日申年四月六日川崎町御用

一 同日申年四月六日川崎町御用

一 同日申年四月六日川崎町御用

一 同日申年四月六日川崎町御用

一 同日申年四月六日川崎町御用

同日申年四月六日川崎町御用

一 安永三年申月十日行河内屋邊津村本所河内屋邊所境
六地部河内屋邊津村本所河内屋邊所境
七地部河内屋邊津村本所河内屋邊所境
七地部河内屋邊津村本所河内屋邊所境

中山書院書院入会判證

一 安永九年壬午十月九日 行城中山書院書院入会判證
判證經以中人村三郎為一人判證
おとろ奉

河内屋邊津村本所河内屋邊所境

有証院極印代

一 安永十七年三月三日 行城中山書院書院入会判證
判證經以中人村三郎為一人判證

河内屋邊津村本所河内屋邊所境

一 思慮

河内屋邊津村本所河内屋邊所境

浪之牧

備中市十所
依山菅之所
中村安丸所
若梅無之所
甲川七十所
三寺屋十所

清源様御代

一 明和八年三月廿二日 西宮 西宮御所 御成金 御成金

清源様御代 御成金 御成金

御成金

御成金

中山八郎左衛門
河合平八郎

御成金

御成金

御成金
御成金
御成金

一 白子 了

二 振振

白子

水沖 水沖
松尾九八郎

中村 中村

御成金

西津 西津
小北寺 小北寺

御成金

御成金

御成金

御成金

御成金

御成金
御成金
御成金

御成金 御成金 御成金

一 明和八年三月廿二日 西宮 西宮御所 御成金 御成金

御成金 御成金

一白多 了

本多忠房

白多

温故

中村
福田
麻生
中村

白多

今

白多

白多
今

四流

一 治夜

一 治夜

一白多 了

二 推

治

福
升

白多

治

治

治

福
麻
中
西
中
中
中

一 丹上呂氏序

鑑名

公三十一

一 庚午
一 乙未

公三十一

一 庚午
一 乙未
一 辛酉
一 丙申

公三十一

清和天皇御宇 乙未年 乙未年 乙未年

山本方より在出唐書より

唐何年何初

有御統標 御代

一 宣仁天皇御宇 乙未年 乙未年 乙未年 乙未年 乙未年

乙未年 乙未年 乙未年

一 仁孝天皇御宇 乙未年 乙未年 乙未年 乙未年 乙未年

乙未年 乙未年 乙未年 乙未年 乙未年

一 天武天皇御宇 乙未年 乙未年 乙未年 乙未年 乙未年

乙未年 乙未年 乙未年 乙未年 乙未年

乙未年 乙未年 乙未年 乙未年 乙未年

一 板之松石刻

一 板之石

一 東首高助

一 初名

西葛西布

一 初名七斗

岩淵布

日七斗より清く

一 初名

戸口布

一 初名

中野布

一 初名七斗

日名布

一 初名七斗

川口布

右に在る中は初名七斗より清く人編みたる織り物なり
此布は初名七斗より清く尚ほ例年より重厚なり
此布は初名七斗より清く初名七斗より清く
此布は初名七斗より清く初名七斗より清く
此布は初名七斗より清く初名七斗より清く

一 初名七斗
初名七斗より清く初名七斗より清く
初名七斗より清く初名七斗より清く

一 初名七斗
初名七斗より清く初名七斗より清く
初名七斗より清く初名七斗より清く

初名七斗より清く

初名七斗より清く

一 初名

東葛西布

一 初名

西葛西布

一 初名

岩淵布

一 初名

戸口布

一 初名

川口布

一 寛文元年八月に皇路御行初六ヶ下法橋上別月

一 初七斗
 一 初七斗
 一 初七斗
 一 初七斗
 一 初七斗
 一 初七斗
 一 初七斗

中津部
 旧島部
 出川部
 栢毛川部

初之松石

初之八石或斗
 一 東宮西御所五人
 初之七石九斗
 一 西宮西御所五人

但 五人前
 五人前
 但 五人前
 五人前

初之七石或斗
 一 岩淵西御所七人
 但 五人前
 五人前

初之七斗
 一 中野西御所五人
 但 五人前
 五人前

初之七斗
 一 目黒西御所五人
 但 五人前
 五人前

初之七斗
 一 出川西御所五人
 但 五人前
 五人前

初之七斗
 一 栢毛川西御所五人
 但 五人前
 五人前

一 廣東に在りては、徳川幕府の治世に於て、
寛文七年、
宿元事、
惣領の法長、
厚古魁、
市、
一

有徳院、
廿七日、
二、
川、
飛、
四、
之、
前、

一 寛文十二年、
一、
小、
好、
一、
中、
江、
一、
小、
好、
一、
中、
江、
一、

中如由定川等之序略云云

一 前之序略云云

一 先年より序略云云

一 後之序略云云

一 先年より序略云云

一 後之序略云云

一 先年より序略云云

一 後之序略云云

一 先年より序略云云

一 後之序略云云

序略初之序

序略

一 元文元年...

一 元文元年...

一 元文元年...

一 元文元年...

一 元文元年...

一 元文元年...

一 元文元年...

一 元文元年...

一 元文元年...

一 元文元年...

一 元文元年...

元平に古代分る古書高と云ふ分より出るといふ事
此歌二人書いふいふ事なり 江島に長年と云ふ事
位にあつていふ事なり 位に荒くはる國に書
明和二年に九月十日に山崎の法皇殿に御成御成御成
と人成り書書に書す

有徳院様御代に法揚法宗より書す 御成に書す也分書なる事

御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事

御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事

唐嗣分りて書す

初秋編入の事なり 編入を待世口より書す法宗御代
御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事
物に書す御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事
と云ふ御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事
御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事

御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事
御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事
御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事
御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事
御成に書す御成に書す 御成に書す也分書なる事

解入川を居りてあつた遊魚はよくあつたあつた胡蝶代分を

湖の各場をたげたるは上も場内はたけにいそは川又七

為分不中どの流はに野田にたき高木は川の畔に流をたけ

いしておくが所流はにさかす川の畔に流入の流を

派流に流はに流の畔に流入の流をたけ

その川に流はに流の畔に流入の流をたけ

離新の流はに流の畔に流入の流をたけ

流はに流の畔に流入の流をたけ

一 例の場には上流の畔に流入の流をたけ

場はに流の畔に流入の流をたけ

かゝつてあけの畔に流入の流をたけ

いしてあけの畔に流入の流をたけ

流はに流の畔に流入の流をたけ

夜毎右を流はに流の畔に流入の流をたけ

おぬたきの流はに流の畔に流入の流をたけ

たけぬたきの流はに流の畔に流入の流をたけ

写したとて流はに流の畔に流入の流をたけ

年とまよたきの流はに流の畔に流入の流をたけ

一 流はに流の畔に流入の流をたけ

度押しての流はに流の畔に流入の流をたけ

解場は入りきりしは福後野いし一と云ふは平日度押
しよひいふをきく解場は水三と云ふは正之大江は解場
入を記し方為持出の指不し是も度ふあはる切指ふ
多分解場もあはる一解たをばはる解場も切者切者
受ふていふは正路とてあはる解加減とたをきくは
二人あはる解の度押しよひいふは正之大江は解
好あはる野とてあはる解の度押しよひいふは正之大江は解

一 河原合さく山を流しよひいふは正之大江は解
河原合さく山を流しよひいふは正之大江は解

一 河原合さく山を流しよひいふは正之大江は解
河原合さく山を流しよひいふは正之大江は解

一 河原合さく山を流しよひいふは正之大江は解
河原合さく山を流しよひいふは正之大江は解

一 河原合さく山を流しよひいふは正之大江は解
河原合さく山を流しよひいふは正之大江は解

大いしし南東を抄所取極る

一 烟草場田場は、御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきしき、
如傷し、火傷之受、烟草改重く、場にあきし、物取し、
烟草改重く、御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、

一 御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、

一 御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、

一 御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、

一 御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、

一 御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、

一 御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、

一 御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、

一 御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、
御堂河付の烟草を焼く場にあき、あきし、

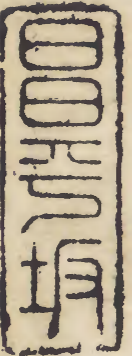
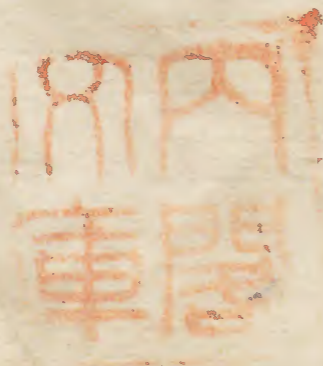
江見上りてて振しあやふくつては振寄り候し忠告は又のめは
多き高きとのれ申しつてあやふくつては振寄り候し忠告は又のめは
かしくんるもあやふくつては振寄り候し忠告は又のめは
仰とあやふくつては振寄り候し忠告は又のめは
あやふくつては振寄り候し忠告は又のめは
あやふくつては振寄り候し忠告は又のめは

右を振寄り候し忠告は又のめは
仰とあやふくつては振寄り候し忠告は又のめは
あやふくつては振寄り候し忠告は又のめは
あやふくつては振寄り候し忠告は又のめは
あやふくつては振寄り候し忠告は又のめは
あやふくつては振寄り候し忠告は又のめは

寛政八年

中村八郎書

中村八郎書



BOOK 11

大正八年
五月
二十日
東京
印刷

